

にのみやそんとく 二宮尊徳



油菜栽培地跡（神奈川県小田原市）



二宮尊徳の生家（神奈川県小田原市）



桜町陣屋跡（栃木県真岡市）

二宮尊徳は、天明7年（1787）7月23日、相模国栢山村（現小田原市栢山）の二宮家の長男として生まれました。両親を早くに亡くし、親戚に預けられるなど苦勞の連続でした。

しかし、尊徳が24歳にして二宮家の再興を果たすと、その評判が高まり、37歳のときには、小田原藩主大久保忠真より下野国桜町領（現栃木県真岡市）の復興を依頼されました。

尊徳は、その功績が認められ、幕府直属の役人となり、全国610カ所の藩や郡村の復興を成し遂げました。

二宮尊徳の教え「報徳思想」とは？

二宮尊徳は次の教えを広め、多くの藩や郡村を復興しました。

積小為大（せきしょうだい）

小さな努力や工夫の積み重ねが大きな収穫や発展につながる

至誠（しせい）

まごころを尽くすこと

勤勞（きんろう）

物事をよく観察・認識し、社会に役立つ成果を考えながら働くこと

分度（ぶんど）

自分の生活や立場、状況に合った生活をする

推譲（すいじょう）

勤勞・分度により、生じた余剰・余力の一部を子孫や社会のために譲ること

